

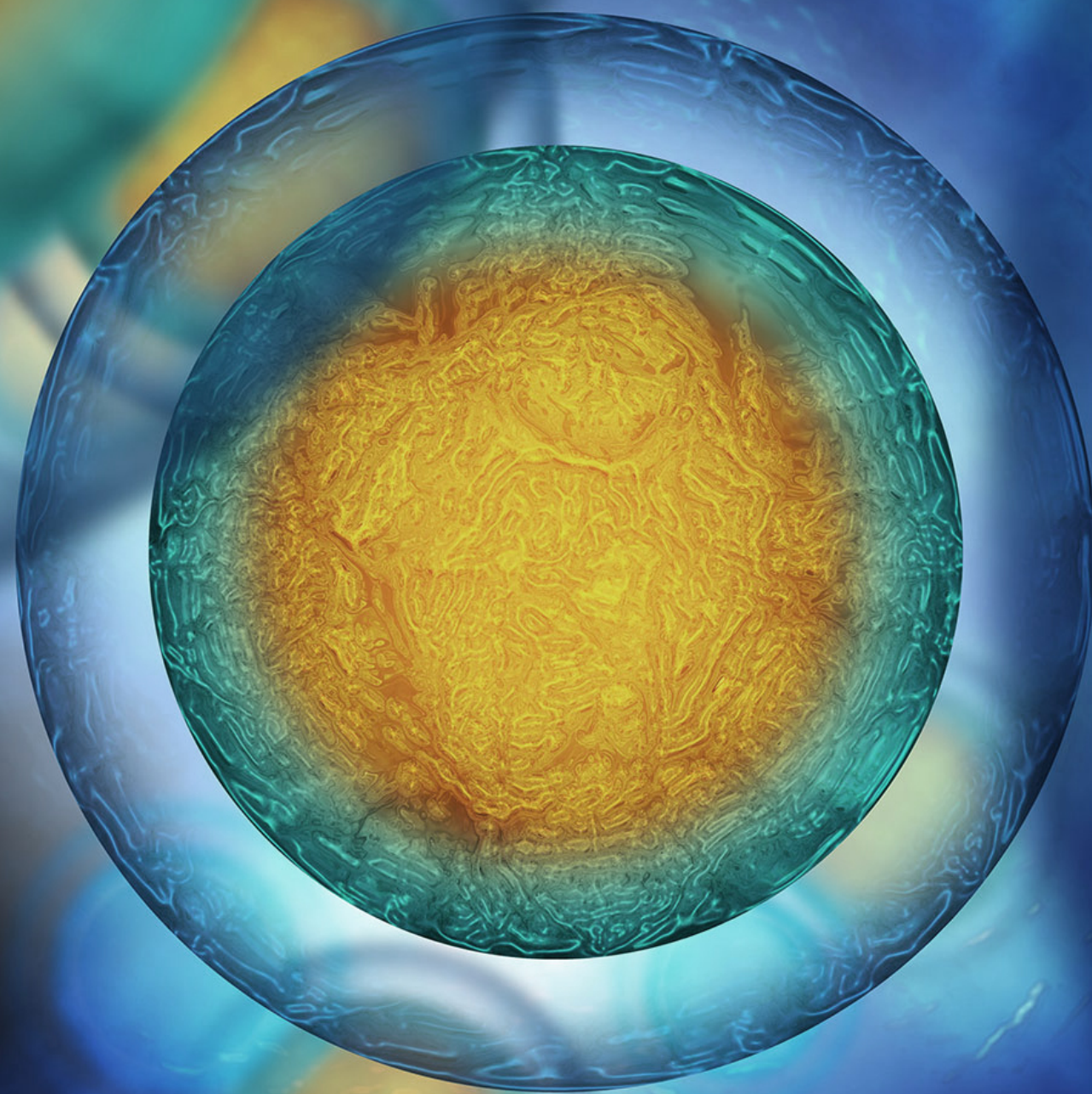
萬生会 理事長

松野 文彦

B細胞リンパ腫の

新しい治療法

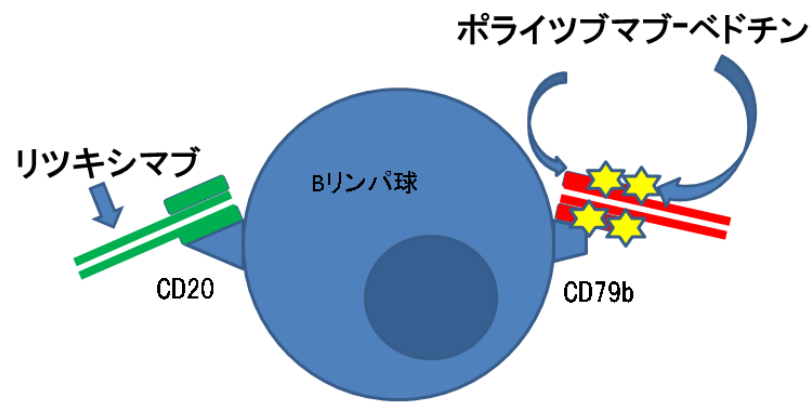
特定医療法人 萬生会
熊本第一病院



B細胞悪性リンパ腫の新しい治療法

図1

リツキシマブはCD20にくっつき、ポライツズマブ-ベドチンはCD79bにくっつく

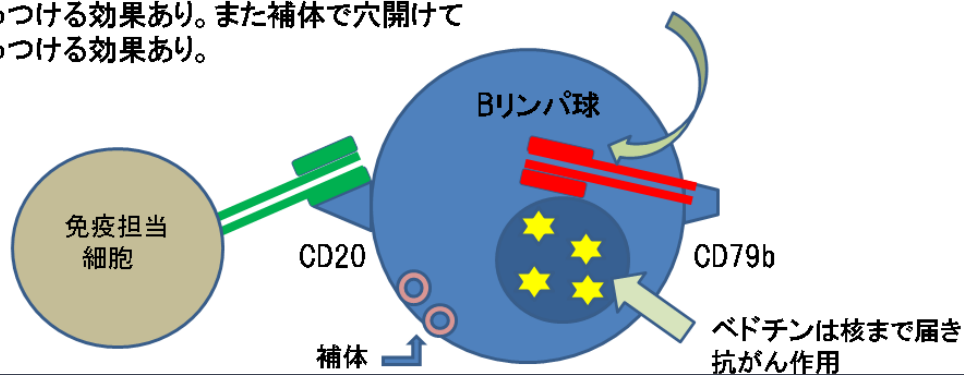


B細胞悪性リンパ腫の新しい治療法

図2

リツキシマブは免疫担当細胞とくっつきやっつける効果あり。また補体で穴開けてやっつける効果あり。

ポライツズマブは細胞の中へ入り、運び屋として働き、また自分自身も障害性効果あり。



今日はB細胞悪性リンパ腫の新しい治療法についてお話します。悪性リンパ腫は白血球の中のリンパ球の一部がガン化して起こる血液のがんです。その元となるリンパ球は、主にB細胞とT細胞に分かれます。B細胞由来の細胞表面にはCD20という突起とCD79bという突起があり、CD20に対する抗体がリツキシマブです。このリツキシマブと従来の抗がん剤とを組み合わせる治療方法はもう20年以上なされており、B細胞悪性リンパ腫に対する標準的な治療法と言われています。リツキシマブは細胞表面にくっついたままで、自分の免疫細胞を呼びよせて悪い細胞をやっつける効果(ADCC)や補体というタンパク質を活性化して細胞に穴をあける(CDC)効果を発揮します。一方、CD79bに対する抗体はポライツズマブと言います。ポライツズマブは細胞表面にとどまらず細胞の中に入っていくタイプなので、悪い細胞のみに抗がん剤を運んでくれる運び屋の働きがあります。この抗体にベドチンという抗がん剤をくっつけたお薬が2021年3月に日本でも発売されました。リツキシマブや抗がん剤と一緒に治療することで再発の方や治りにくい方々に福音をもたらしつつあります。また、最近では初発の方にも使えるようになりました。



工事中のRoswell Park



私のお部屋の入口

米国留学中の頃の松野理事長

1994~1997年

アメリカ合衆国ニューヨーク州

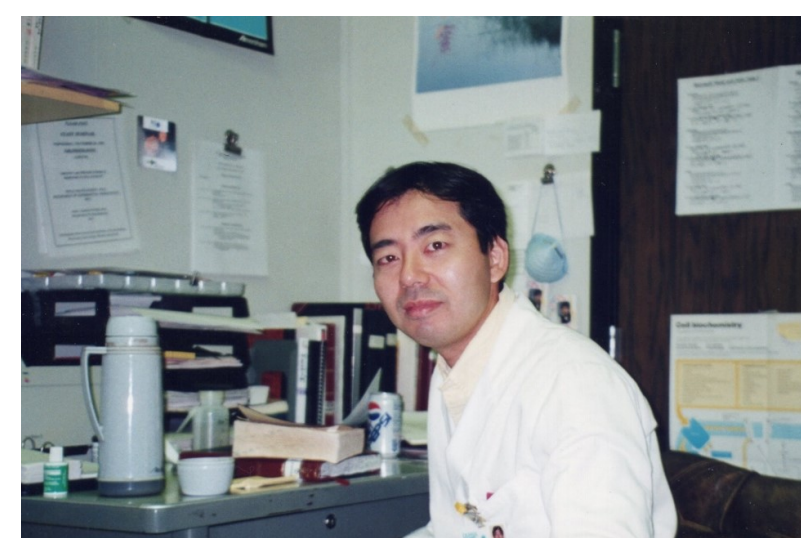
ロズウェルパークがん研究所



Cancer Cell Center



夏の我が家



25年前のDr.松野

さて、昔話になりますが、熊本大学血液内科から米国ニューヨーク州、ラズウェルパークがん研究所のDr. Seonの研究室に合計5名が留学いたしました。現在開業されている松崎博充先生が初めて門戸をたたき、次に熊本赤十字病院の吉田稔先生が続かれ、そして私、その次に国立熊本医療センターの原田奈穂子先生、そして最後に熊本赤十字病院の采田志麻先生が留学されました。私が在籍していたのは

もう30年近く前(1994-1997)のことですが、Dr. Seonに言われるままに実験を行い、Dr. Seonはいつか薬になるのが夢と語っておられました。その当時はまさか本当に薬になるとは思わずに研究していました。その抗体はSN8という名前でしたが、それが今、お薬になっているポライツズマブです。私の研究も新薬の開発のほんの少しだけですが、一助になれたことは大変うれしく思います。